

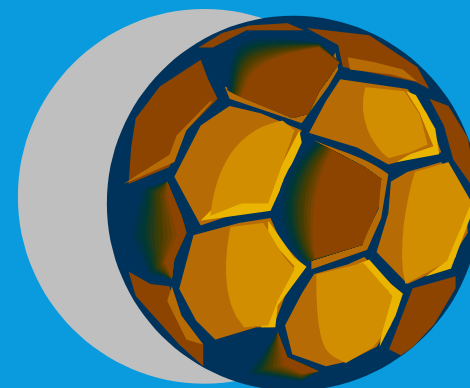
# 産学連携によるコーディネー ショントレーニングの促進

桐蔭横浜大学 Kチーム

村上潤之介 大西汐香 鹿野内竜太郎

# 次第

- ① 緒言
- ② 概要
- ③ 提言
- ④ 参考文献



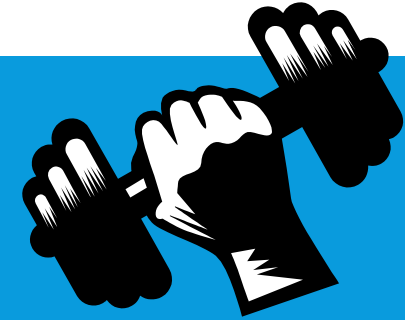
～緒言～

# 1-1. 年代別子どもの体格・運動能力の比較

	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	142.8	145.0 (↑2.2)	145	146.9 (↑1.9)
50m走 (秒)	8.8	8.8 (→0.0)	9.0	9.1 (↓0.1)
ソフトボール投げ (m)	34.8	29.6 (↓5.2)	20.8	17.4 (↓3.4)

## 1-2. 緒言

運動能力の低下  
若者のスポーツ離れ



スポーツのレベルアップ

# 1-3. 横浜市スポーツ推進基本目標

子どもの  
体力向上方策の  
推進

地域スポーツの  
振興

高齢者・障害者  
スポーツの推進

トップスポーツ  
との連携・協働  
の推進

# 1-4. 日本人選手と外国人選手



日本のトッププレイヤー



海外のトッププレイヤー

# 1-5. 着目

良く言われるのは、「**フィジカル**」が弱い  
でも、肉体改造や身体づくりで、本当に世界で戦える  
ようになるのか



そこで注目したのは “**動きづくり**”



# 1-6. 動きづくりの定義

身体というのは

「パフォーマンスを構成する一要素」に過ぎない。

- ・ パフォーマンスの目的とする動き
- ・ より速い動き
- ・ 意図したように身体を動かす など、



**自らの身体をスムーズにコントロール  
できる力を動きづくり**という。

# 1-7. 動きづくりと小学生

動きづくりにフォーカスしたトレーニングの効果が強く結びつくのはなんと、**大人**ではなく



小学生



ゴールデンエイジと呼ばれている!!!

# 1-8. 推奨

対象：小学生（ゴールデンエイジ）

方法：コーディネーショントレーニング



ところが！

**コーディネーショントレーニングの認知度が極めて低い**のが今、直面している問題である。

# 1-9. 産学連携

大学生だけでは限度がある

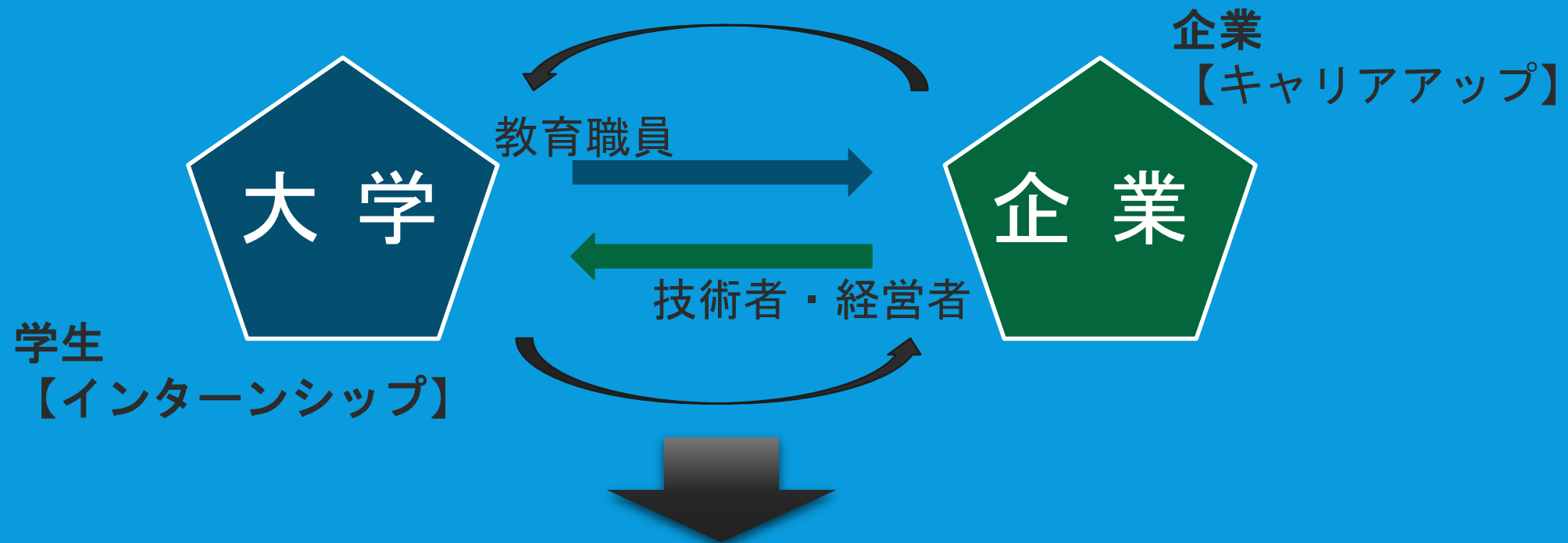


社会をうまく利用して、  
効果的かつ実現的な政策を可能にしたい



そこで、  
大学と社会の共同の政策として  
「産学連携」を用いる

# 1-10. 産学共通プラットフォーム



大学院生・社会人学生 ⇒ 修士号取得  
科目等履修生 ⇒ 単位取得

# ～概要～

## 2-1. 概要

- ・コーディネーショントレーニング

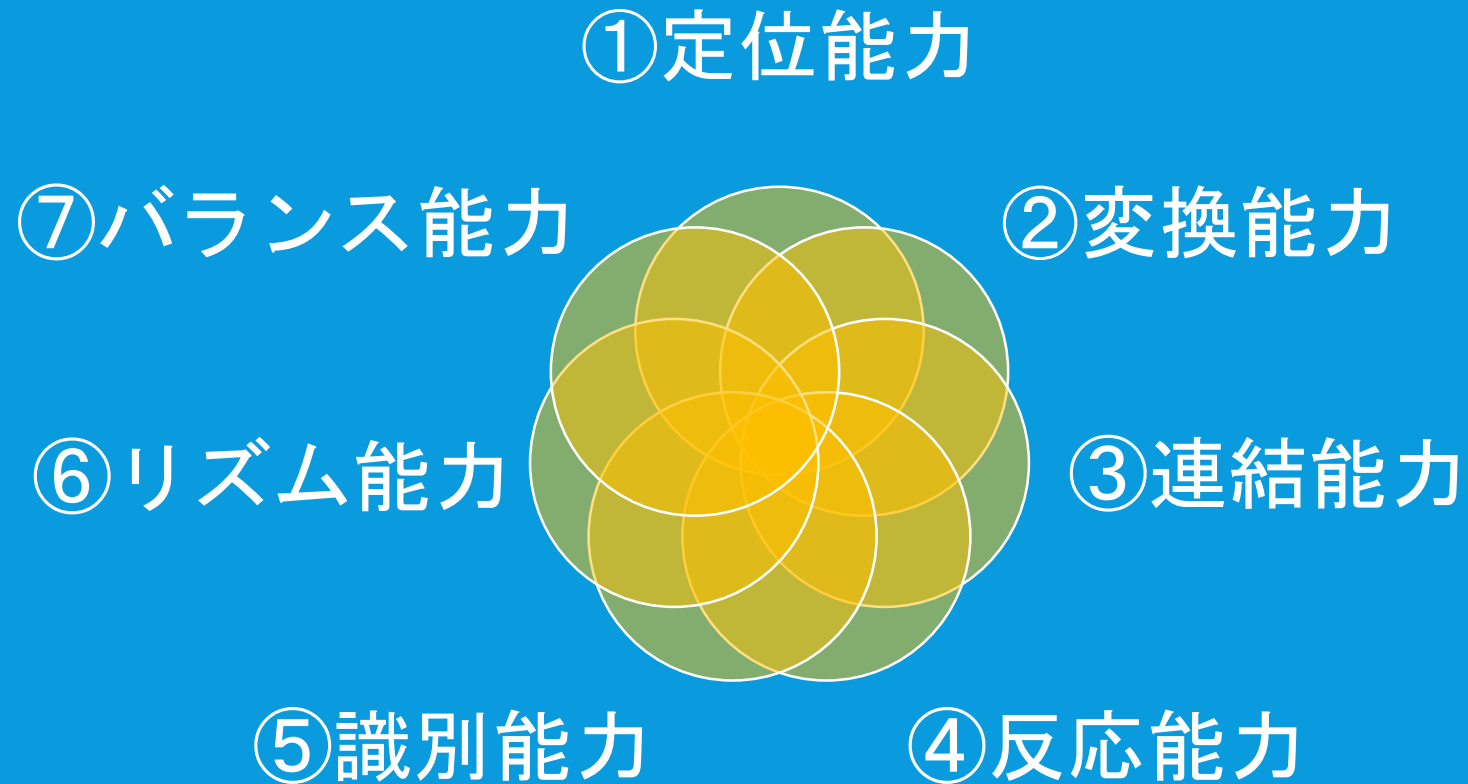
身体、筋力を鍛える

**運動神経**

遺伝子

7つの能力

## 2-4. 7つのトレーニング



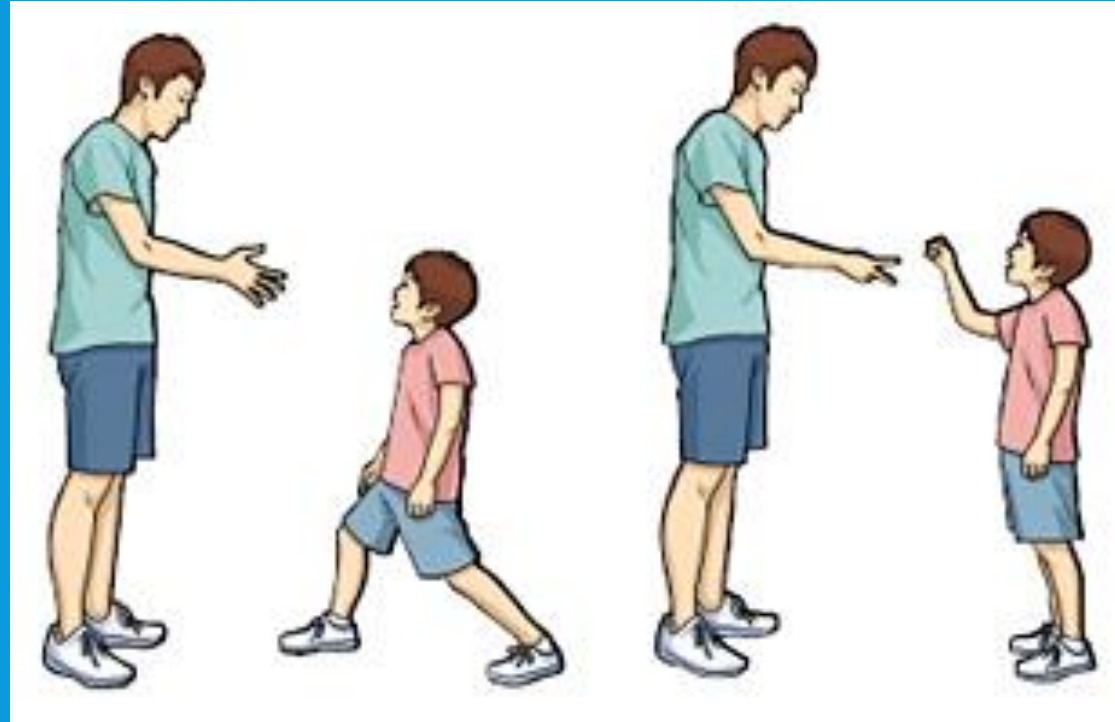
Athroot : <http://www.athroot.com/coordinationtraining.html>



## 2-2. 代表例①ラダートレーニング



## 2-3. 代表例②リアクションじゃんけん



## 2-5. 効果

①新しい技術を正確に習得

②新しい技術を短期間で習得

③筋力と持久力を効率的に活用

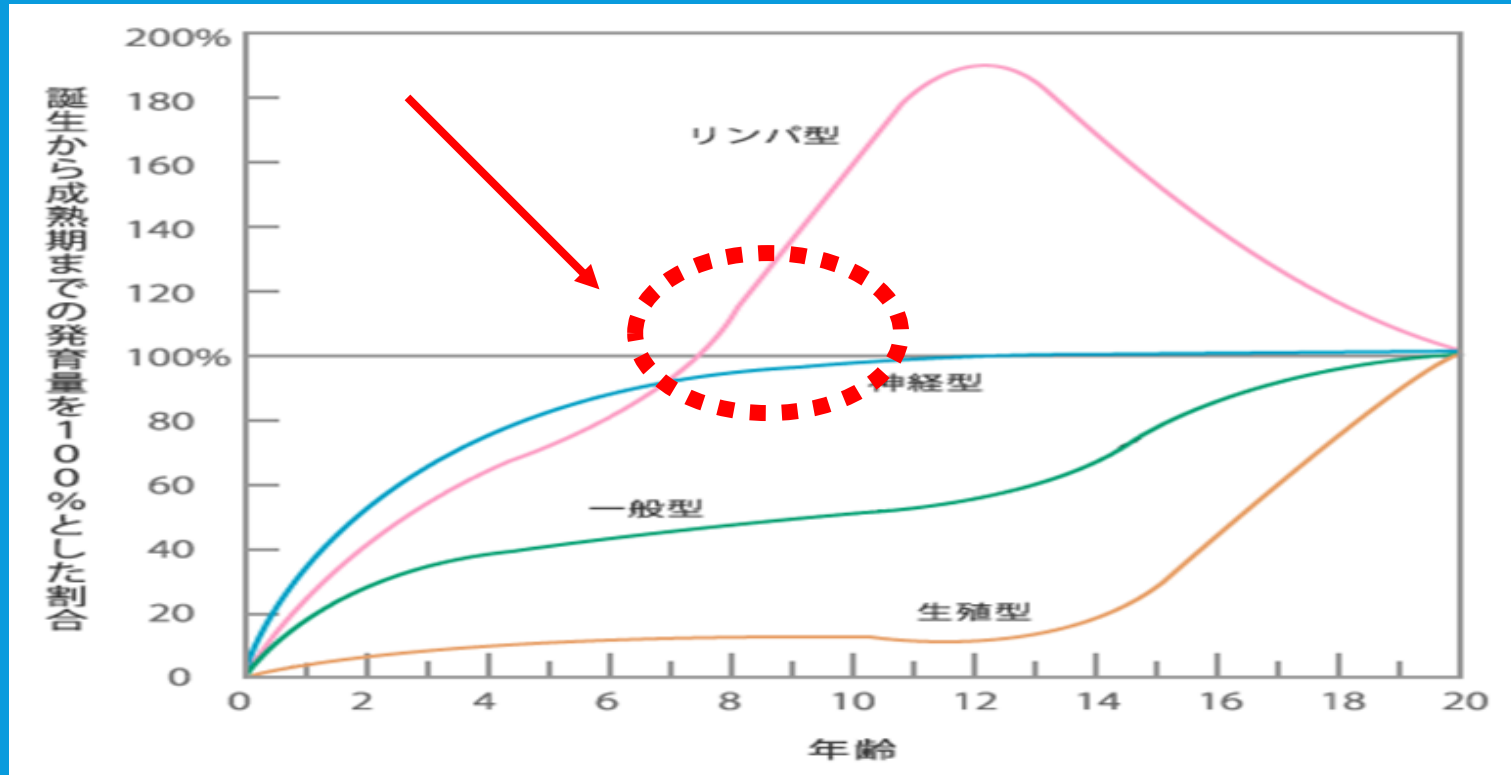
④環境が変化しても質の高い技術を発揮

⑤スポーツ傷害を予防

どの年代にも有効！

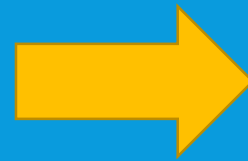
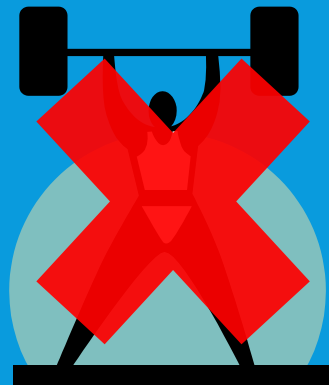
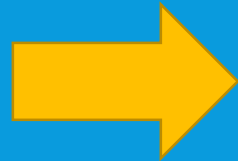
## 2-6. 神経系の発達

- ・ スキャモンの発達発育曲線



彼末一之著：『やさしい生理学』、南江堂、2011年4月、p. 158

# 2-7. 対象



## 2-8. 実施データ

### ・体カテストの結果

神丸一祐（2011）『体づくり運動』としてのコーディネーショントレーニング』より作成

	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	立ち幅跳び (cm)
I小学校4月	18.12	31.18	35.94	44.82	144.82
I小学校5月	20.59	32.59	38.18	55.00	157.59
2008年5年生	19.37	32.47	42.43	51.83	154.54
2009年6年生	20.83	33.22	42.68	56.43	162.27

～提言～

## 3-1. 直面している問題

日本では40年以上前から、「協応性」、「調整性」などの表現でその重要性が訴えられてきた。

しかし！！

教育の現場に浸透していない...



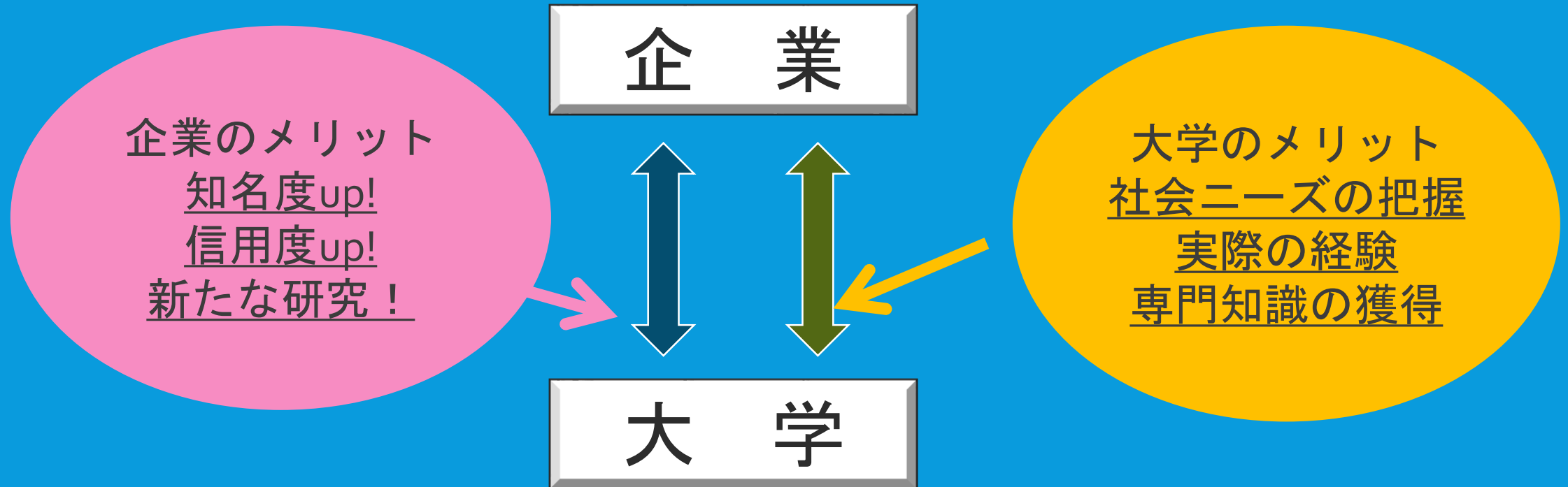


## 3-2. 産学連携による認知度UP!

- ・ 大学、企業、市の三体が企画するコーディネーショントレーニングイベント（市での規模）
- ・ 大学生が小学校に出向いての、授業展開
- ・ 大学からの情報をもとに、企業が消費者に向けての、事業化やさらなる商品開発の促進

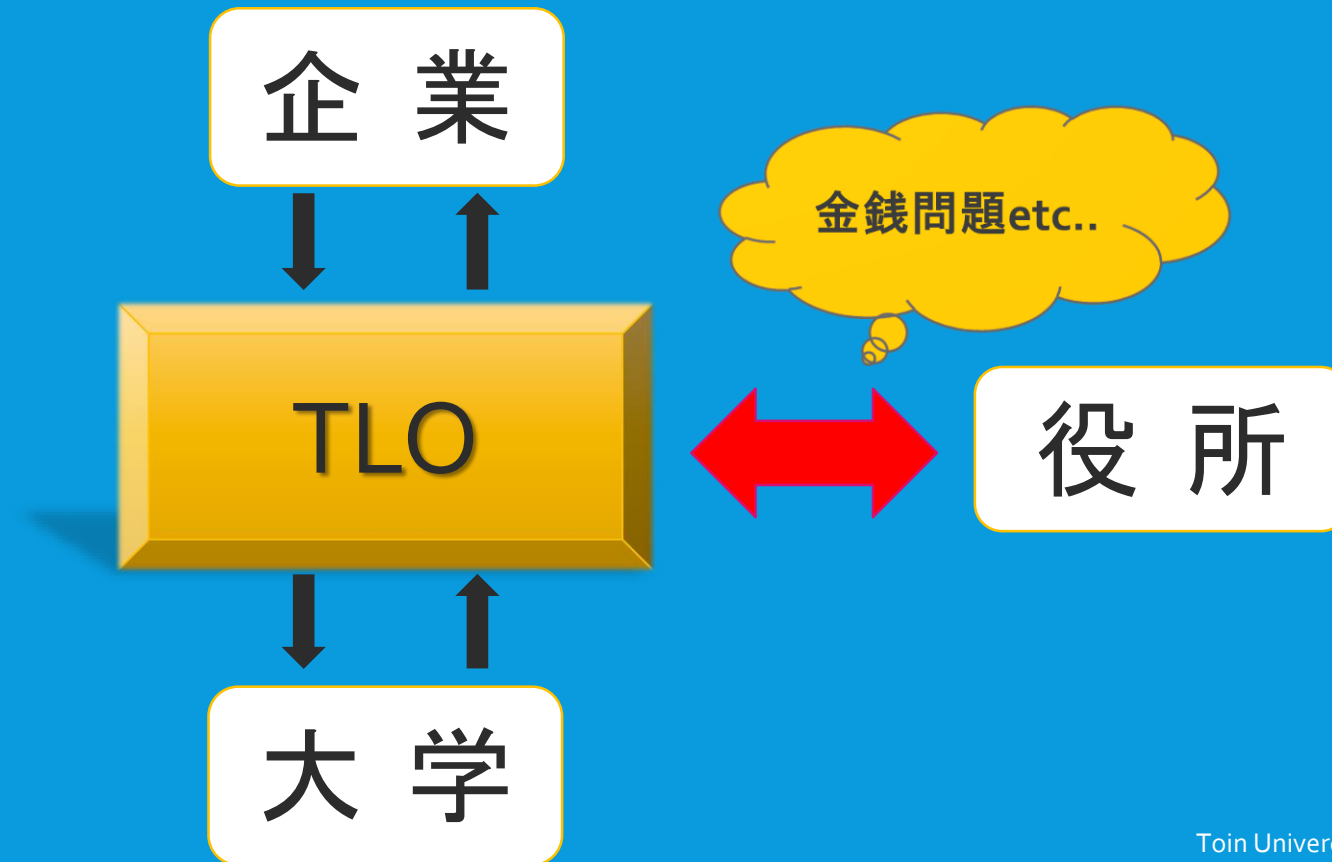
# 3-3. 従来の産学連携

Ex. 企業と大学が連携して、相互に利益のあることを推進する

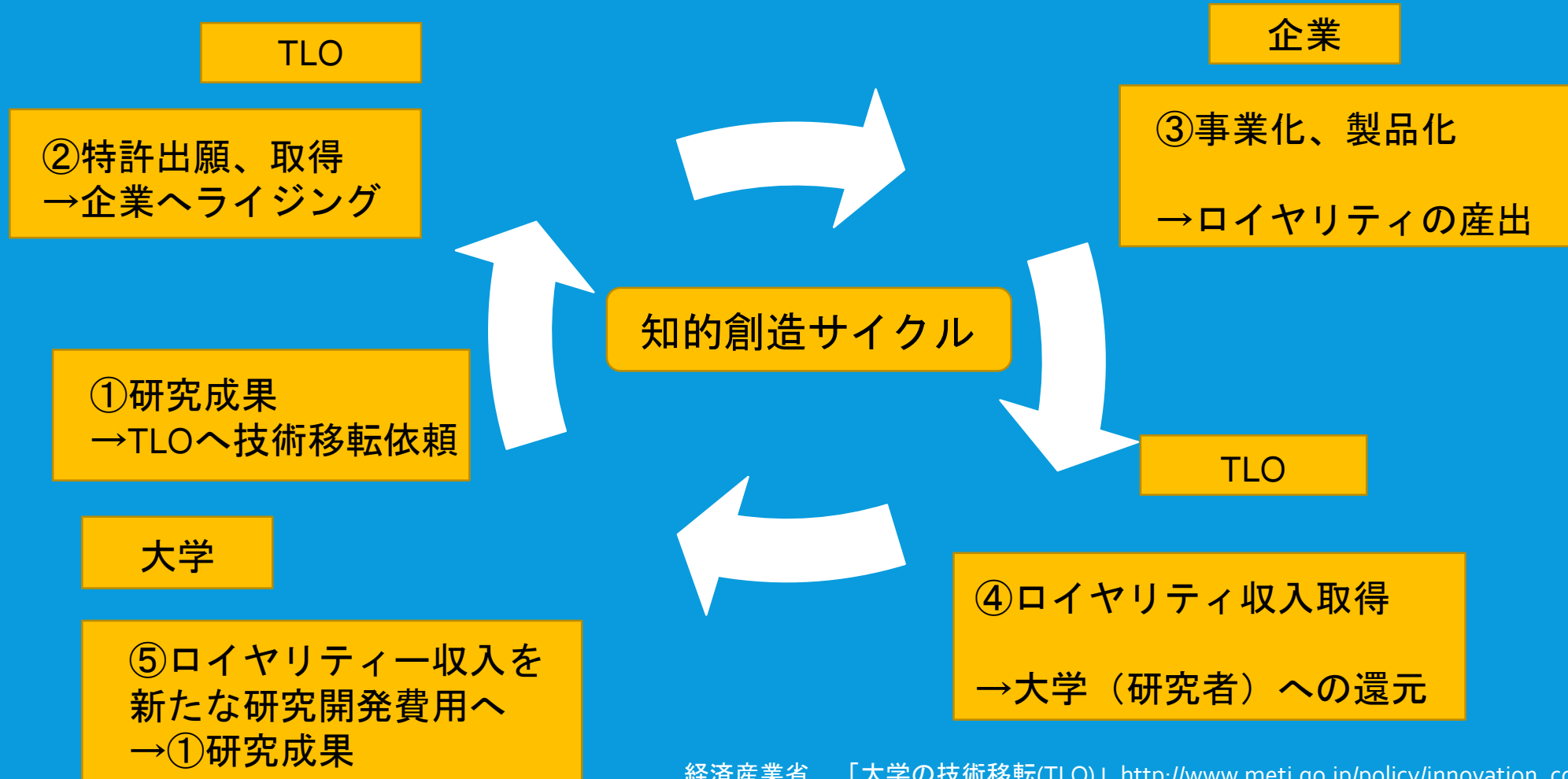


## 3-4. 加わる産学連携

- そこに、今ある諸問題を緩和するものを加える



# 3-5. 知的創造サイクル



## 3-6. 提言

- ・上記の図を一つの組織とした新たな産学連携
- ・大学と企業、そして市役所。さらに新しく加えたセンター組み込んだ組織を提言する

- ・提言先：**横浜市**

\* 規模を拡大するために、全国の**政令指定都市**に提言していくことを目標とする。

## 3-7. まとめ

コーディネーショントレーニングを小学生に推奨する。

まず...コーディネーショントレーニングを知る必要がある。

知識

言葉

概念

これらを知る機会を増やし、**認知度**を高める！

# 参考文献

# 4-1. 参考文献

- ・ 横浜市スポーツ振興部スポーツ振興課2014年8月9日にヒアリング調査を実施
- ・ ペーター シュライナー (2002) サッカーのコーディネーショントレーニング、大集館書店
- ・ 神丸一祐著：『「体づくり運動」としてのコーディネーショントレーニング』国際人間学部紀要、鹿児島純心女子大学国際人間学部、2010年3月、pp52-55
- ・ 日本コーディネーショントレーニング協会 JACOT : <http://jacot.jp/index.html>  
(2014/10/17 閲覧)
- ・ 文部科学省 「産学連携を支える人材の育成に関連した主な意見」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu10/siryo/attach/1335722.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu10/siryo/attach/1335722.htm) (2014/10/17 閲覧)
- ・ 文部科学省 「産学連携の課題」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu8/toushin/attach/1330955.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu8/toushin/attach/1330955.htm) (2014/10/17 閲覧)



ご清聴有難う  
ございました。